経営比較分析表（令和5年度決算）

石川県　小松市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**有収率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**
-	36.34	73.38	89.72	2,530

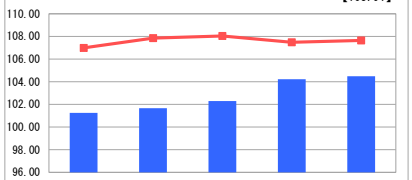
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
106,104	371.05	285.96
処理区域内人口(人)	**処理区域面積(km²)**	**処理区域内人口密度(人/km²)**
77,641	22.95	3,383.05

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

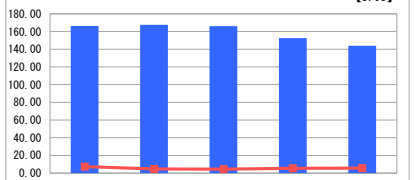
【105.91】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	101.26	101.66	102.29	104.22	104.48
平均値	106.99	107.85	108.04	107.49	107.64

②累積欠損金比率(%)

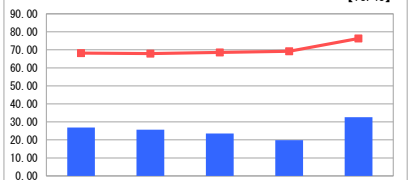
【3.03】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	166.32	167.69	166.07	152.53	143.89
平均値	7.42	4.72	4.49	5.41	5.61

③流動比率(%)

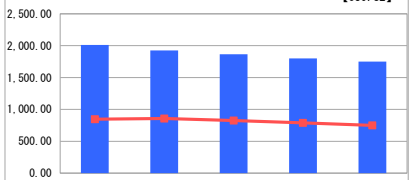
【78.43】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	26.84	25.66	23.57	19.84	32.57
平均値	68.18	67.93	68.53	69.18	76.32

④企業債残高対事業規模比率(%)

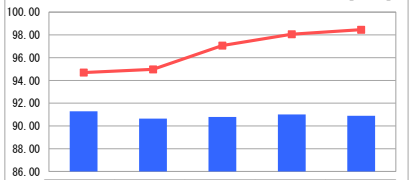
【630.82】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	2,012.22	1,926.20	1,864.16	1,799.46	1,750.05
平均値	847.44	857.88	825.10	789.87	749.43

⑤経費回収率(%)

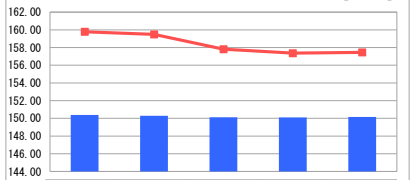
【97.81】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	91.28	90.65	90.79	91.01	90.89
平均値	94.69	94.97	97.07	98.06	98.46

⑥汚水処理原価(円)

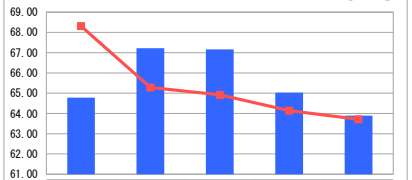
【138.75】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	150.39	150.28	150.12	150.11	150.16
平均値	159.78	159.49	157.81	157.37	157.45

⑦施設利用率(%)

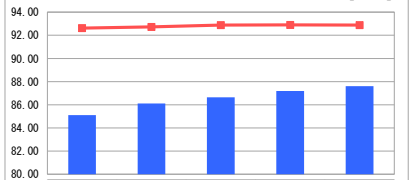
【58.94】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	64.78	67.22	67.16	65.03	63.89
平均値	68.31	65.28	64.92	64.14	63.71

⑧水洗化率(%)

【95.91】

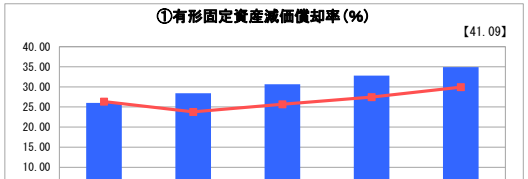


	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	85.10	86.11	86.64	87.19	87.60
平均値	92.62	92.72	92.88	92.90	92.89

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

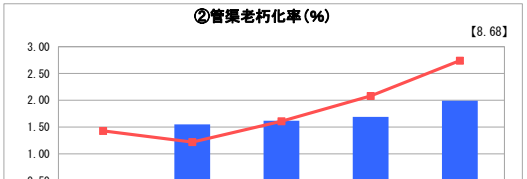
【41.09】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	26.03	28.40	30.63	32.81	34.91
平均値	26.36	23.79	25.66	27.46	29.93

②管渠老朽化率(%)

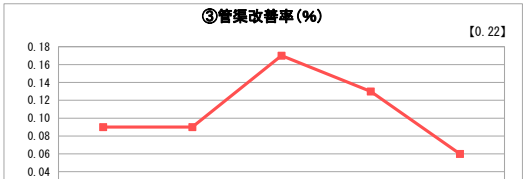
【8.68】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	0.14	1.55	1.62	1.69	1.99
平均値	1.43	1.22	1.61	2.08	2.74

③管渠改善率(%)

【0.22】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	0.09	0.09	0.17	0.13	0.06

※　「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみの類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

各指標については、前年度と比較し、ほぼ横ばいの数字となっています。但し、類似団体や全国平均と比べると、大きく下回る指標も存在しています。中でも、企業債残高対事業規模比率では、事業規模に対して企業債残高の割合が高いという結果になっていますが、必要な工事を行いつつ投資を抑制することにより、企業債残高を減少させ適正な比率になるよう努めているところです。また、類似団体や全国平均には届かないものの水洗化率については、毎年上昇しており、接続率を改善させることで収益性の安定化に努めます。
　今後はさらに水洗化率の向上や経費削減に努め、「安全・安心」の下水道事業を推進していきます。

2. 老朽化の状況について

令和２年度より法定耐用年数を超えた管路の割合が増加しましたが、管路点検調査業務により管路の安全性や損耗具合を把握し、適切な更新を検討しています。今後は、一時的に管渠老朽化率が上昇することが見込まれますが、長寿命化計画を策定のうえ、更新工事が短期間に集中しないよう取り組みます。

全体総括

今後も経営改善と老朽化施設の更新、未普及解消事業、浸水対策事業を同時に行なっていく必要があります。また、令和６年能登半島地震災害による被災管路の復旧工事も実施しているところです。これらの事業が経営を圧迫するような過大な投資にならないよう、企業債発行額の上限を設けることにより投資を平準化させ、収支のバランスをとりながら、事業経営を進めていきます。